

カトリック 高松教区報

2005年1月30日(第105号)

発行所 カトリック高松司教区
広報委員会
〒760-0074
高松市桜町1-8-9

TEL 087-831-6659

FAX 087-833-1484

Email tkcuria@mxi.netwave.or.jp



ワールドユースデーへのおさそい



二〇〇五年教区報の第一回発行に際して多くのことを考えました。しかし、期日が迫っているワールドユースデー(WYD)へのさそいを優先させました。なぜなら、私は高松教区の緊急課題で最優先させるものは青少年の育成にあると信じているからです。これについては司祭評議会においても、信徒使徒職協議会においても私が強調した点です。WYDは一九八六年に教皇ヨハネ・パウロ二世が青年に呼びかけて始まったもので、二〇〇五年にはドイツのケルンにおいて第二〇回大会が行われます。世界の青年が集ま

り、自分の信仰を確かめ、深める場となっています。また信仰体験を通して、現代社会に青年としてどのように生きていくかも考えさせる素晴らしい時でもあります。今回は「わたしたちはイエス様を拝みに来ました」という東方の三人の賢者のことばにある通り、キリストに従う私たちの歩みを黙想し、考えることになっけています。キリストとともに歩むことを通しながら、自分の人生を振り返る最高の時と場を提供するのが今回の世界大会です。そのために前回のトロント大会より、特別にカテケージス(教理解説)が巡礼団に生まれ、内容を充実したものにしています。また世界各国の青年との交わりの中で、文化的違いや国籍を乗り越えた信仰者としての共通体験を分かち合うことがで

きます。WYDに参加した青年がどれ程変わり、教会を下さる揺さぶったかは仙台教区の例から確信をもって伝えることができます。

私の着任が急であったことや青少年委員会発足に時間がかかったことで、高松教区においては大会準備の時期が遅れてしまいました。司祭評議会が青少年委員会を発足させることを決定したのが二月、担当司祭の集まりを開催したのが一月五日であり、遅ればせながらケルン大会に向けて歩むことを決議しました。要項は主任神父様、並びに信徒会長宛てで各教会に送りまして、是非教会単位で検討してください。是非教会単位で検討してください。

高松教区司教

溝部 脩



WYDケルン大会のシンボルマーク

はばたき

◆二〇〇五年が明けた。玄関先のツバキが白とピンクのまだらの花を咲かせ始めた。これからひと月、寒さの中であんな姿を見せ続けてくれる◆それにしてもスマトラ沖地震の被害は大きかった。死者一五万人以上という未曾有のものだった。予想もしなかった大きな津波に人々は逃げまどった。神様は人間に何を問いつけているのだろうか◆元旦のミサで、この被災者たちと新潟地震の被災者のために祈った。昨年の世相を表わす漢字は「災」だったが、今年はそうならぬことを望む◆さて年頭の書簡で溝部司教は、最大の課題は「一致への歩み」だと述べられた。「神の前で」司教と共にねばり強い対話が必要だろう。今年には聖体の年。共にいて、生かしてください。キリストの中で、一致を深めていこう。

司祭評議会報告

二〇〇四年一二月七日第一回司祭評議会が開催された。次の議案が討議され、決議された。

1 司祭評議会について。司祭評議会は年に八回開催する。司祭評議会は司教を補佐する大切な機関であり、ある事柄に関しては司教は必ず諮問する。

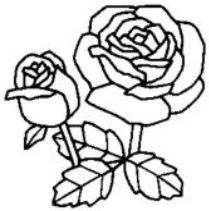
2 教区委員会について。委員会があつて教区を活性化できるといふ観点から、教区委員会の構成、内容を検討した。広報委員会と青少年委員会を早急に立ち上げる。広報委員会の顧問司祭は事務局長浜口末雄師、青少年委員会の委員長はジュード・ピリスプツレ師。教区の典礼の統一を計るために典礼委員会を発足させる。委員長は教区会計浜口秀昭師。社会問題、並びに人権に関して教区の意識を高める

ために正義と平和委員会を発足させる。同委員会は部落問題、移住移動問題、平和旬間のことなども取り扱う。同委員長は栃尾泰英師。

3 司教教書作成について。司祭評議会において司教教書の概要を共同で作成する。これによって司教教書の重みを増し、司祭評議会が教区統治の共同責任を負うことになる。

4 司祭集会と司祭研修会について。六月に一泊二日の研修と交流を兼ねた集会をもつ。

5 教区の日開催について。九月一九日(月)敬老の日に愛媛地区の適当な場所を借りて行う。信徒使徒職協議会に連絡して決定する。



溝部 脩

青少年委員会報告

一月五日(水)、第一回青少年委員会が開かれた。そこで扱われた議題は次の二点である。

一 高松教区の青少年活動を活性化するために。

1 青少年司牧活動を高松教区の優先課題と位置付ける。司祭評議会においても、信徒使徒職協議会においてもその必要性を強くアピールする。

2 二月中に第二回青少年委員会を開催する。それには各県担当司祭は二名、または三名のアシスタント(協力者)を選んで参加させる。その場で教区の青少年運動をどのよう

に有機的に、また効果的に盛り上げるかを検討する。第三回委員会には更に青年リーダーを招集し、参加者の数を増やしていく。どこかの時点で教区単位の何かの集まりができ

るかを検討する。

3 青少年部門の基金をつくる。これについても同委員会で検討し、実行に移すべく努める。同基金を使って会合や出張の費用を捻出する。

二 世界青年大会(ケルン大会)に参加する件。

1 高松教区としては、本年八月に開催される世界青年大会へ青年を積極的に参加させることを奨励する。せめて一〇名を期待している。参加する青年は日本司教団主催巡礼への公式参加となる。

2 参加要項を各小教区に送り、青年に広く配布することをお願いする。参加希望者は各県の担当司祭にその旨を告げ、申し込み用紙に記入する。各県の担当司祭は次の通り。香川県川島IIホールへ・ソーザ師、愛媛県IIホアン・マヌエル師、高知県IIジュード・ピリスプツ

レ師、徳島県IIマヘル・ウイリアム師。

3 教区としては一〇〇万円の予算措置をとった。一〇名参加としても一人一〇万円程度の援助をすることができ。

ただし参加費用は概算で二五万円なので、参加する青年がいる小教区には応分の援助を願う。ただし全額を援助するのは参加する青年の意識を育てるためには好ましいと思われない。青年は自分で幾らかでも払うことで大会参加の意義をもっとよく理解できると考える。

ジュード・ピリスプツレ



教区信徒協総会

信徒協とは、正式には信徒使徒職協議会と言いますが、これ

は、小教区の信徒会の会長が集まって各県に県信徒協が作られ、各県の代表と使徒職団体の代表者によって教区信徒協という組織が出来上がったものです。

教区信徒協の役員会は年に数回開催されますが、さらに各方面の代表者も加わって、原則として年に一回開かれるのが教区信徒協の総会と呼ばれるものです。

去る一二月四日から五日にかけて高知中島町教会で総会が行なわれました。この議事録は(役員会も同様ですが)各小教区に送ってありますから、掲示板などを是非ご覧になって頂きたいと思えます。

さて、二日間に渡って続いた協議事項は、議事録を読んで頂くとして、今回の総会に着座式後の新しい司教様、溝部脩司教様のもとで行なわれたという大きな意義をもったものでした。この会で、司教様はこの教区に

何を望まれ、どのように司牧されようとしているかをはっきりとお話なさいました。要約するとそれは次のような内容です。



溝部脩司教様のお話の要約

◇この教区での最も大きな目標として、「多様性の中の一致」を掲げたい。

◇教区は司教が全てを司るのではなく、司祭評議会と司牧評議会(信徒協)の意見を聞きつつ司牧する。

◇事務・会計を正常化する為に事務局を充実する(事務局長・

会計担当者を新採用)。尚、

教区の会計は信徒たちのお布施によって成り立っているが、

このままでは二〜三年で成り立っていかなくなる。

◇司教の意向を伝え、信徒の意見を司教に反映させる手段として教区報の復興をはかる。

◇青少年教育に全力を注ぎ、召命活動を活性化する。(今年

八月に、ケルンで開催される

世界青年大会への参加を目指す。)

総会に参加した役員は一樣に司教様の人となりと思気込みに感動し、また司教様の意向が実現するように手足となって活動しなければならぬという決意を新たにしました。

教区信徒協会長 田井貞良



2004年9月 MEウィークエンド
聖カタリナセミナーハウス

ドが五年ぶりに北条のカタリナセミナーハウスで開催された。この時も、準備や歓送迎を多くの仲間達が熱意を持って支えに回ったので、参加者一同感謝と喜びが織りなす素晴らしい時を過ごす事が出来た。

ウィークエンドは、家庭や社会の中にある様々な関わりを基礎となっている夫婦の関わりを深め、①自分と配偶者との関係、②自分達と神との関係、③自分達と周囲の人々との関係を大切にして、より良く生きようとす

る人生の愛の旅路が示されているように思う。

ウィークエンドの貴重な体験をしたMEの仲間は、二ヶ月に一度の集いを心待ちにしている。集いでは日常生活の中にある喜怒哀楽の感情を、みんなが有りのまま素直に分かち合っている。この分かち合いを心の奥から出てくる祈りとして傾聴していると、自分の感情まで、一人ひとりの心の中におられる神の働きかけによって癒され喜びへと変えられていくように感じられる。二〇〇五年を迎えた今、念ずれば通ずるの言葉の如く四国に住む多くの夫婦や神父様が、同じ信仰の下、気楽に参加出来るウィークエンドを定期的に開催する事が出来ますように、重ねて貴重なこの紙面をお借りしてMEに対するご理解とご支援をよろしく願います。

ME四国コーディネーター

丸亀教会 須山二郎・京子

青年会コーナー

四国の青年会は、社会人が多くを占め、大学生は県外生がほとんどで卒業後、地元へ帰ることが多く、なかなか継続して活動していける青年が少なくなっているなか、なんとか集まって活動を続けています。

昨年は、丸亀教会でのあっちこっちミサに始まり、高知での青年ミサ、徳島「ピース9の会」講演会、岡山合同キャンプと精力的に活動することができました。今年も、四国四県、交流を深めながらさらに活発に活動していきたいと思っています。

高知中島町教会青年会 谷脇孝延



聖ドミニコ会宣教修道会の黙想会に参加して

昨年(平成一六年)十一月六日、七日と北条のカタリナ学園セミナーハウスで、ファン・マヌエル師の指導で、黙想会が行われた。

主に、若い女性のためのもの

だったかも知れないが、私も参加させていただいた。

七名の方々と共に、それとドミニコ会宣教修道会女のシスター方と楽しく歌い、祈り黙想の間が持てたことは、幸福であった。

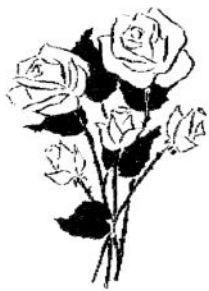
テーマは、「主よ、私の小徑を教えてください」というので、

追い追いに紙面は充実していくことと思うが、他教区又は、充実した小教区の広報誌なども参考にしながら、教区民の関心と負けん気と呼び起こし、高松教区を盛り上げていきたいものである。それには、多くの読者と編集委員会を悩ませるほどの、多数の投稿を期待している。互いに情報を交換しながら、それぞれの小教区が発展していけば、目的の一部は満たされる。

目下は年四回の発行に留まるが、資金も獲得し、毎月の発行を早期に達成したい。地区担当委員の一人として、年頭に思うことである。

高知地区担当委員

岡副俊雄



愛媛地区小教区だより

私たちの小さな教会のメンバーが何年かぶりに増えそうです。男女各一名の洗礼志願者がいます。神父様をはじめ、信徒一同応援しています。

今年、布教活動に頑張るぞー。
(カトリック伊予三島教会)

昨年は記念すべき教区百周年と溝部司教が着座され、教区に画期的な風が教区報を通じて感じ、身の引き締まるのを覚えます。

司教様の指導の下で一步一步と進めたい。
(カトリック新居浜教会)

祈りのうちに、あらためて自ら(自分自身、信仰、教会、教会共同体の中の自分)を見つめ直し、考える年に。
(カトリック西条教会)

昨年五月、ローマの教会から宣教家族として、ガエタノ夫妻と愛らしい三人の子供達を迎えた。

一八号台風で傷んだ教会の屋根修復工事がみんなの一致協力、降誕祭前に完成。

(カトリック今治教会)

元旦ミサで津波・地震の被災者のために祈る。一月は信徒総会と新年懇親会が続く。月末には教会守護の聖人トマス・アクイナスの祝日を記念し行列を予定。

(カトリック道後教会)

どの人も心の癒しを求めなければ、生きていくのが困難な時代。

イエス様、マリア様の慈悲、優しさのうちに生きている心の喜びが、他人に旗幟鮮明に察知できる言動一致の人になりたい。

(カトリック松山教会)

神の道を聖霊の導きで共に歩みたい人を歓迎しよう。若者を待ち望む。待っているのは誰も訪れない。神の道の偉大さをたくさんの人に伝えたい。

(カトリック郡中教会)

とても小さな教会ですが、家族的な雰囲気です。

イグナチオ神父様を助任司祭として迎え、新たな気持ちで頑張っていきたいと思えます。

(カトリック八幡浜教会)

昨年は主任司祭の重なる異動や、教会のドミニコ会から教区への移管など激動の一年であった。

老人化「夕暮れ状態」から「あけぼの」を目指すためには若い人が大勢いなければ、将来、教会共同体の維持発展はない。現実を直視し、勇気と知恵を持って問題解決に立ち向かいたい。

(カトリック宇和島教会)

高松教区広報委員会発足

二〇〇四年十一月一八日に高松教区広報委員会発足会が開かれ、『二〇〇五年司教年頭書簡』に書かれている主旨で教区報を発行することになりました。

高松教区広報委員会において左記の委員が溝部司教様より任命されました。

- 委員長 和泉文男 (桜町教会)
- 副委員長 田井貞良 (桜町教会)
- 技術担当 長谷川聖 (桜町教会)
- 書記 中川修栄 (桜町教会)
- 会計 住吉才子 (番町教会)
- 地区担当委員

- 今泉芳純 (郡中教会)
- 岡副俊雄 (中島町教会)
- 高田芙美 (徳島教会)
- 多田繁夫 (普通寺教会)

年四回 (一月、四月、七月、一〇月) 発行して参ります。高松教区の皆様ご協力お願いします。

(住吉)

編集後記

昨年一二月に教区広報委員会が立ち上げられ、今から動き出そうとするその矢先に、和泉文男委員長が入院されました。ちょうど全日本の野球の長嶋監督のように、病室からの指示を仰ぎながらの作業でした。従って「とにかく一月中に出そう！」を合い言葉に編集を急ぎましたのでこの程度のもとなりましたが、次号からはより質の高いものにする為に皆様方のご意見を編集部までお寄せください。

なお、コラムは、長年愛媛新聞社で編集等のお仕事をされていた道後教会の丸尾修氏に依頼致しました。

(田井)



http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/committee/wyd/index.htm WYDケルン大会日程等

日程	主な予定
8/9 (火)	朝 成田組: 9:20頃 出発 → ソウル (12時間) にて乗換 (約2時間40分) 開空組: 9:40頃 出発 → ソウル (11時半頃) にて乗換 (約2時間) 両組合流し、ソウル 12:45頃 出発 → 現地時間 17:35頃 フランクフルト着 (約12時間) 夜 (現地) バスでルクセンブルクへ移動 (約2時間)、ユースホテルなどに宿泊
10 (水)	「ルクセンブルクにて日本巡礼開幕の日」 午前 日本巡礼団総団ミサ (ルクセンブルク大聖堂) 午後 フィアンデンの森の聖母聖堂へ徒歩巡礼 夜 聖体礼拝 (この夜からホームステイなど、ルクセンブルクの受け入れ場所に宿泊)
11 (木)	「出会いの日々」(ルクセンブルク内の各地でホームステイ、もしくは教会施設に宿泊) ～14 (日) コンサート、演劇鑑賞や、ホームステイ先での交わり、滞在小教区でのミサやプログラムに参加
15 (月)	午前 聖地 → エヒターナート (ルクセンブルク国内) 午後 → バスで本大会期間中の宿泊地デュッセルドルフ (ケルン教区) へ移動 (約2時間)
16 (火)	「ワールドユースデー本大会」 午後 ユース・フェスティバル 夜 ケルン大会開会ミサ (ケルン大司教区マイスナー聖堂)
17 (水)	午前 司教によるカテケシス・ゆるしの祈り 午後 ユース・フェスティバル
18 (木)	午前 司教によるカテケシス・ゆるしの祈り 午後 教皇歓迎式典 夜 ユース・フェスティバル
19 (金)	午前 司教によるカテケシス・ゆるしの祈り 午後 十字架の運行
20 (土)	午前 徒歩巡礼で教皇ミサの場所へ移動 夜 教皇と共に夕べの祈り
21 (日)	午前 教皇式ミサ
22 (月)	「日本巡礼団乗りこりの日」 大会を乗りこりながらの、祈りと分かち合いの日 (日本巡礼団のみ)
23 (火)	ケルン教区との交流の日
24 (水)	午後 滞在地デュッセルドルフ → 列車でフランクフルトへ移動 (約1時間半) 夜 フランクフルト 19:55頃 出発 → ソウル (25日 14:25頃) にて乗換 (約11時間) 成田組: ソウル 18:40頃 出発 → 8:25 (木) 20:50頃 成田着 (約2時間) 開空組: ソウル 19:05頃 出発 → 9:25 (木) 20:45頃 開空着 (約1時間半)

- 日程は下記4つに分かれています。いずれかを選んでお申し込みいただけます。
- A) 2005年 8月9日～8月25日 (ルクセンブルク + 本大会 + ケルン教区交流会)
 - B) # 8月9日～8月23日 (ルクセンブルク + 本大会)
 - C) # 8月15日～8月25日 (本大会 + ケルン教区交流会)
 - D) # 8月15日～8月23日 (本大会のみ)

概算旅行代金 A,B (24万円) C,D (25万円)

参加資格 (大会参加時点で)

- ・ 年齢: 18才 (高校生を除く) ～35才まで (アシスタントの年齢制限なし)
- ・ 国籍: 不問 (但し、国籍によってドイツ入国の査証が必要となります。申込書に必ず国籍をお書きください。

《受付から参加確定までの流れ》

(現在計画中の大まかな手続日程です。状況により一部変更の可能性がございますのでご了承ください。)

- ①参加希望者
- ↓
- ②WYD教区窓口へ申込み (大会申込書提出) (2005年2月28日締切り)
(窓口が不明の方はWYDケルン大会日本事務局 03-5632-4480までお問合せください。)
- ↓
- ③申込金 (10,000円) の振込み (2005年3月10日頃～3月31日頃支払い期日目安)
2005年3月10日以降に請求書を発行しますので、日本事務局にご入金ください。
入金確認され次第、大会参加が確定します。
- ↓
- ④旅行申込書・旅行代金 (概算25万円) 請求書 配布 (配布予定2005年5月上旬)
旅行申込書は記入後、旅行会社に提出
旅行代金は旅行会社にご入金ください。

【その他】

- ・パスポートは各個人で用意してください。
(有効期限にご注意ください。)
- ・ドイツ入国査証が必要な方、日本再入国許可証が必要な方は、それぞれ取得の手続きを行います。
(国籍によって異なります。)

WYDケルン大会参加に必要な費用

- 大会申込金…… 10,000円 (支払時期目安: ～2005年3月30日頃) 日本事務局へ入金
- 巡礼旅行代金… 概算25万円 (支払時期目安: ～2005年5月31日頃) 旅行会社へ入金

注意: 申込金は大会本部との連絡や、運賃金²⁾、日本事務局から申込者への連絡通信費等の諸経費になり、旅行費用には充当されません。

振込み後のキャンセルがあっても、返却できませんのでご注意ください。

ご質問がございましたら、WYDケルン大会日本事務局まで！

電話 03-5632-4480 FAX 03-5632-4465 Eメール wyd@obj.catholic.jp

²⁾ 運賃金は、変更されない国からの参加者補助。参加者ひとりあたり10ユーロを教皇庁保健評議会に納めることになっている。